市民の誰もが安心して暮らせる国分寺市をつくりたい。

このニューズレターは、さまざまな分野の地域課題を共有し、一つひとつの解決に向け、連携して取り組んでいく、自立支援協議会の報告をお届けするものです。今号の巻頭言は、昨年10月、「８０５０問題～地域包括ケアシステムを考える～」（国分寺市障害者基幹相談支援センター・国分寺市介護保険ケアマネジャー連絡会共催）で講演された白石先生に執筆いただきました。講演後、多くの反響がありました。

「誰もが、まちの一部であるようなまち」を目指して

白石弘巳　精神科医

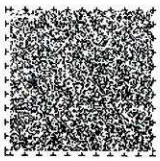
――顧みますと20年近く、(中略)ご指導いただき感謝申し上げます。(中略)私たち夫婦は、老々介護の日々の生活で老いることの大変さをつくづく感じ、我が身のことさえおぼつかない状態になり、今年で家族会をやめることにしました。(中略)先生には一言御礼を申し上げたく、――

最近、家族会の会員や私がかかわる交流会の参加者の方々から、このようなお手紙やご挨拶をいただくことが増えてきました。長年にわたり、身内の方のお世話をし、後ろ髪をひかれる思いを抱きながら、その役割を終えられていく方々が多いことに、自らの支援の至らなさを痛感する今日この頃です。障害者と暮らしてきた高齢化する親の問題は、8050問題などと言われて注目されていますが、親子間ばかりではなく、兄弟同士や夫婦間でも同様の問題が顕在化しています。国は、「精神保健福祉の改革ビジョン」(2004年)以降、病院中心の医療から地域生活を支える医療の構築へと舵を切りました。しかし、2015年2月に発生した81歳の父親が精神障害のある41歳の長女を殺害した和歌山の事件で、父親が「長年、長女の暴力に苦しめられ、警察や保健所などは助けにならなかった」と語るなど、家族の負担や苦しみは、いまだ解消されるに至っていません。「本人の改善」がこの問題の根本的な解決であるとし、それができないでいることを言い訳にして、支援者が家族の思いに応える努力を怠ってはならないと思います。

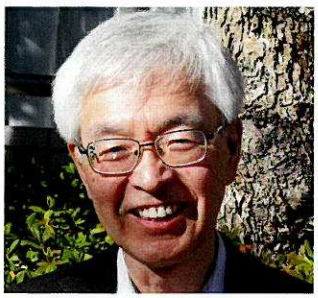
それでは、現状でできる最善の支援とは何でしょうか？1)「社会モデル」*の理念に立ち 2)本人・家族に対し相互理解と合意形成を重視する支援を行うために、対話を重視する 3)どんなことでも気楽に相談にのる 4)住民の理解と支援が得られるように応援する、などが柱だと考えます。

私は、M・エンデの小説『モモ』の主人公が心の支援者の理想像ではないかと思ってきました。モモは小さな女の子で、専門的な知識もないのに、困りごとのある大の大人はモモに悩みを打ち明けているうちに、いつの間にか心が癒されていくのです。支援の技術、紹介できるリソースが豊かであるに越したことはありませんが、当事者が「負けないで、自分らしく、前向きに生きていく」ために、支援者として、顔が見える関係を「てこ」に、「共通の頭」(相互理解)を形成し、並走を心掛けていけたらと願います。

そして、ゴールは、「誰もがまちの風景の一部であり続ける」ことです。ある事業所では、メンバーが事務所の周りを定期的に掃除して住民の方と交流していたところ、メンバーの一人が入院したことを知った近所の人が、その人の退院の知らせを聞いて赤飯を炊いて持ってきてくれたそうです。「誰もがまちの一部」とは、こういう交流のことかと思います。人は多くの人とゆるくつながっているとき、自由と幸せ(満足)を感じる傾向が高まると言います。国が掲げている「地域包括ケアシステム」が地域に根付くために、こうした心を癒す人々(応援団)とのつながりをどんどん増やしていけたらと思います。



＊社会モデルとは、障害者が感じる社会的不利は、その個人の問題ではなく、社会側の問題だと捉える考え方。



―プロフィール―
しらいし・ひろみ

埼玉県済生会なでしこメンタルクリニック院長。東京医科歯科大学医学部卒業。同大学院修了（医学博士）。正慶会栗田病院、東京都精神医学総合研究所、東洋大学ライフデザイン学部教授、等を経て、2018年より現職。埼玉県済生会鴻巣病院副院長兼任。精神保健指定医。精神科専門医。その他、日本精神保健福祉学会副会長、川崎市精神障害者家族会連合会（あやめ会理事）、(社福)めぐはうす理事長等を併任する。

各専門部会より、最新レポート！

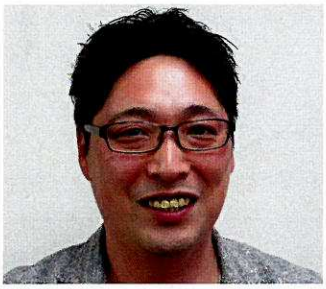
◆国分寺市障害者地域自立支援協議会の3部会員より、各専門部会の進捗状況をお届けします。

◆専門部会は、専門分野ごとに、各メンバーと検討・協議を重ね、自立支援協議会の全体会に報告する役目を担っています。

相談支援部会部会員　馬上弘子
国分寺市立こどもの発達センターつくしんぼ 相談支援事業所 相談支援専門員

こどもの発達センターつくしんぼの相談支援専門員の馬上です。つくしんぼは、国分寺市の公立の施設で、お子さんの発達について心配なことがあった時に相談できる場です。さまざまな職種のスタッフがいて、お子さんの育ちを支援しています。私の仕事は障害福祉サービスを利用する時に、お子さんにとってどのような環境が必要なのかを把握してサービスを利用するための計画をたてたり、関係機関との連絡調整や情報提供などを行っています。相談支援部会では、相談支援事業が抱える共通の課題に対して、各分野の委員が現状を踏まえて協議をし、解決のための具体的な取り組みに繋げています。

今年度の成果として、まず緊急時対応については、事前把握のために順次面談が開始されました。また相談支援専門員が作成する書類の“国分寺オリジナル”様式が完成し、運用をはじめました。そして『こどもあんしん相談ナビ』という障害児福祉サービスの案内冊子が出来上がります。主に関係機関向けに作成したこの冊子を通して、福祉のサービスが有効に活かされ、子どもたちのゆたかな育ちのために地域のネットワークが強くなることを期待しています。



就労支援部会部会員　境和雄
一般社団法人Life Commit 就労支援事業所チェンジアップ 所長

就労支援事業所 チェンジアップで所長を務める境と申します。チェンジアップは、障害者総合支援法に位置付けられた「障害福祉サービス」のうち、「就労移行支援」を行う事業所であり、就労を望む方に、一定期間にわたり、就労に必要な訓練と支援を行います。

「就労支援事業所チェンジアップ」の名称には「移行」の文字がありません。なぜならば、一般企業への就労や福祉的な就労など、当事者が思うさまざまな形の就労に対する「意向」を支援できるように、あえて「移行」を付けていないのです。

私は、就労支援を通じて「仕事」や「就労」とは、そこに通う方たち自身が決めることであり、それに取り組む人の数だけ「仕事」という捉え方があってよいと考えています。そして、大切なのは「どこで働くか」ではなく、「どう働くか」だと日々思っています。

就労支援部会では、今年度の計画の一つとして、「地域の就労支援機関と医療機関の連携による精神障害者の就労促進に関する意見交換会」を開催しました。また、各事業所の横のつながりや細やかな情報提供と共有、連絡調整をはかりながら、一般就労を望む方への見学や実習を進め、就職後のフォローアップを含めて、最後までかかわれる体制づくりを進められればと思います。

精神保健福祉部会部会員　河上恵三
社会福祉法人万葉の里 地域活動支援センターつばさ 主任

つばさでは、障害種別を問わず、すべての障害のある人に開かれた相談業務とサロン事業を行っています。相談では、暮らしの中での困りごとや諸手続き、サービス利用にあたってのプランニングなどを一緒に考えます。サロン事業は、おしゃべりやパソコンを使うことのできる交流サロンの運営、健康・文化・コミュニケーションなどの生活力を高めるためのプログラム活動を行っています。また、誰もが暮らしやすい地域となるよう、市民福祉講座などの事業も行っています。

今年度の精神保健福祉部会は、「精神障害者を対象とした地域包括ケアシステムの構築に向けた協議」「早期支援体制の確立に向けた現状と課題の抽出」「長期入院者の実態把握と地域移行支援の在り方の検討」を柱に活動しています。

具体的には、精神障害者が、まちの中で安心して暮らすための課題として「住宅の確保」「多職種連携による早期支援体制」「思春期のメンタルヘルス」を取り上げ、各分野の方から情報提供していただきました。今後も国分寺市内の実情を把握しながら、情報を収集し、活動の大きな柱である精神障害者を対象とした地域包括ケアシステムの構築に向けて、活動を続けてまいります。

国分寺市障害者地域自立支援協議会　各委員より　ごあいさつ　3

◆国分寺市障害者地域自立支援協議会委員の皆さまのご紹介です。前号に続き、自立支援協議会に対する期待や希望を一言ずつ語っていただきました。

◆今回は、当事者の委員の声を受けて、石渡会長から、コメントをいただきました。

ともしび工房の小池です。

毎回この協議会に参加して、皆さんの議論をききながら、いつも勉強させてもらっています。

私は、今、自宅で一人暮らしをしております。

一人でいる時に、もし何かあったらどうしようかと、いろいろと考えてしまいます。

この協議会で、議論していることが、私みたいな一人暮らしをしている障害のある方たちに、何か一つでもお役に立つことがあればいいなと思います。

小池晃
国分寺市身体障害者福祉協会

小池さんとの出会いに感謝！！

小池さんにお会いすると、少年のようにシャイな面と信念を貫く姿勢など、多彩な顔を見せてくれます。

今回も、「勉強させてもらっている」という謙虚さと、「一人暮らしの方の役に立ちたい」という思いやり・強固な意志などが感じられます。たくさんの人と出会い、支えられて地域の生活を続けてきた小池さんだからこそ、と思います。障害があることをむしろ生かして、人との関係や自分の生活を大切にしているとも言え、いつも感服させられています。

どのような障害があっても、その生き方を尊重できる国分寺市をめざして、自立支援協議会の役割をみんなで考えていきたいと思っています。

石渡和実
国分寺市障害者地域自立支援協議会会長
（東洋英和女学院大学教授）

渡邉浩典　国分寺市福祉部高齢福祉課長

高齢福祉課は、平成29年度に当時の介護保険課と高齢者相談室を統合してできた部署で、いずみプラザにおいて高齢者施策全般を所管しています。

現在は、平成30年度よりスタートした国分寺市保健福祉計画・第7期介護保険事業計画に基づき、自立支援・重度化防止に向けた保険者機能の強化、地域共生社会の実現、介護人材の確保・育成等に取り組んでいます。

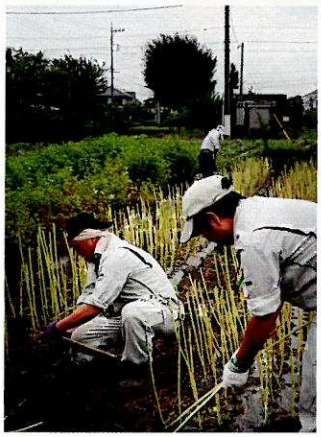
高齢者を取り巻く環境はさまざま変わってきており、ひとり暮らしや認知症の方の増加に加え、障害のある方と介護が必要な親の世帯等、複合的な課題を抱えるケースも増加しております。

自立支援協議会では、市民一人ひとりが地域で安心した生活が送れるよう、さまざまな立場の委員の皆さまと連携を取って一緒に取り組んでいきたいと思います。

大島伸二　国分寺市教育委員会学校指導課統括指導主事

国分寺市教育委員会では、平成29年３月に「第三次特別支援教育基本計画（義務教育時）」を策定し、共生社会、共生地域の形成に向けて、特別支援教育の推進に努めています。児童・生徒一人一人の可能性を最大限に伸長し、将来の自立と社会参加を支援するためには、保護者や市民の皆様と協働して取り組んでいくことが大切になります。自立支援協議会もその協働の１つの場になると考えています。様々な課題があると思いますが、教育に関わる立場として見えることについてお伝えしながら、皆様と一緒に考えていきたいと思います。

国分寺の農福連携の今・これから



近年、注目されている農業と福祉の連携、いわゆる「農福連携」は「農業の担い手」と「障害者の仕事創出」という農業従事者と障害のある方の双方にメリットを生み出します。

国分寺市障害者地域自立支援協議会の専門部会の一つ、就労支援部会では、「こくベジプロジェクト」*との連携を通じて、国分寺の農福連携の可能性を検討し、取り組みを進めています。

～これまでの農福連携の試み～

これまでは、障害のある方の福祉的就労の支援として、福祉事業者が運営する農園で野菜や花を栽培して販売したり、こくベジを使用した商品を開発し、販売したりしてきましたが、地元農家との連携は限定的でした。

～現在の農福連携の活動：雇用機会の創出へ向けて～

農家と福祉事業者が連携して行う活動として、すでに実施されている福祉事業所での市内産イチゴの冷凍製品の加工や、地場野菜を使った洋菓子製造などの取り組みの拡張を図っています。また、畑を障害福祉の就労の場として活用することで、農業者の負担軽減と障害のある方の就労支援に役立てる事業等を試験的に進めています。

先進事例としては、３年ほど前から、障害のある方が農作業を行っている東久留米市の篠宮農園を視察し、作業内容や事業規模、問題点や農家側のメリット等のヒアリングを行いました。その視察を踏まえて、「認定ＮＰＯ法人 Ohana」が運営するオハナ農園で農作業の経験をした障害のある方が、市内の農家で農作業を週１回・半日ペースで行うような取り組みを開始しています。

～これからの農福連携への期待：参加農家拡大への一手とは～

今後は、これらの活動をベースとして、障害のある方に工賃をお支払いするのに適した仕事は何か、どのような契約形態が良いか、対価について等の項目を明確にして、参加農家拡大に向けた取り組みや農家、福祉事業者、市民に向けた情報発信を進めていきたいと考えています。

＊「こくベジプロジェクト」については、右記↗の記事をご参照ください。

国分寺三百年野菜「こくベジプロジェクト」

国分寺市は、都心から電車で約 20 分という好立地にありながら、市域に占める農地の割合は多摩 26 市中２位で、まさに「くらしの近くに農がある」まちです。これは、今から約 300 年前、江戸時代の新田開発に由来します。市では、この資源を市の魅力として発信するため、300 年以上つづく畑の産物である農畜産物をブランド化して「こくベジ」の愛称で呼び、地産地消を推進する事業（「こくベジプロジェクト」）に取り組んでいます。その取り組みとして、地場野菜を使ったオリジナルメニューを提供する飲食店の PR、個人直売所の活性化、農と食のつながりを意識できるイベント（「こくベジのじかん」）などを実施しています。

国分寺三百年野菜
「こくベジ」
www.kokuvege.jp/
「出会える MAP」
こくベジ直売所、こくベジと出会えるお店を紹介しています。

こくベジの取り扱い店には、このタペストリーが掲げられています。

国分寺市障害者地域自立支援協議会 平成 31 年度（2019 年度）開催日程（予定）

自立支援協議会は、障害のある方を支えるための地域づくりの中核として、地域の関係者が集まって協議をする場です。全体会議（年３回程度）と３つの専門部会（年４回程度）で構成されています。

全体会の協議を受けて、各専門部会（相談支援部会・就労支援部会・精神保健福祉部会）では、分野ごとに具体的な協議及び取り組みを行っています。

なお、全体会と各専門部会は、どなたでも傍聴できます。日程等、詳細は、当事務局へお問い合わせください。また、市のウェブサイトからも確認できます。

編集後記

人口約12万3千人の国分寺市は、世帯数も緩やかに微増し続けており、子育て世代が多く暮らすベッドタウンです。古くから交通の要でもあり、〝くらしの近くに農がある〟豊かな地域でもあります。市内をくるっとひと回りすれば、小一時間で一巡できる大きさです。そのような土地柄もあって、新たに参入する人々を受け入れる懐の深さと、住民同士の交流を促す町内のつながりも垣間見れる、ちょうどよい大きさのまちとも言えます。

そして、国分寺市の自立支援協議会の活動を通して、福祉関連事業所同士の有機的なネットワークが育まれてきました。まさに、官民一体となった多職種・多事業が関わる支援ネットワークに成長してきているところです。ぜひ、皆さまのご意見を本誌へお寄せください。

事務局編集部

発行

国分寺市障害者地域自立支援協議会ニューズレター
平成31年（2019年）3月発行（年2回発行）
発行：国分寺市障害者地域自立支援協議会
編集：国分寺市障害者地域自立支援協議会 事務局

国分寺市福祉部障害福祉課
〒185-8501　東京都国分寺市戸倉1-6-1
☎：042-325-0111　FAX：042-324-6831

国分寺市障害者基幹相談支援センター
〒185-0002　東京都国分寺市東戸倉2-7-26 KOCO・ジャム 2階
☎：042-320-1300　FAX：042-313-8823

印刷：社会福祉法人東京コロニー